



# 高千穂宮御由緒

当宮は初め高千穂皇神と申しあげてこの地に宮居をさだめられた天孫瓊々杵尊以下三代の神々をお祀りし千百余年前の承和十年に従五位下、天安二年には従四位上の位を授けられたことが六国史にはつきり記されており、日向国で一番位の高い神社でした。

神武天皇の御兄三毛入野命が高千穂に帰られ神籬をたてて日向御三代の神々をお祭りされたのが初めて、その子孫が長く奉仕されたので後には三毛入野命御夫婦と八柱の御子とを配祀して十社大明神と申し上げました。後更に多くの神々を合祀しています。

社殿は十一代垂仁天皇の御代の創建といわれ、天慶年間豊後国から大神氏が来て三田井家を興し十社大明神を高千穂郷八十八社の総社と崇めました。源頼朝は畠山重忠を代参として多くの宝物を奉納し重忠手植の秩父杉は八百年たった今もなお社頭に高くそびえています。文永、弘安の役には勅使が見え、南北朝の頃征西將軍懐良親王御祈願など古記録や宝物が多数残っています。天正年間三田井氏が滅んで延岡領となり高橋、有馬、三浦、牧野、内藤と歴代藩主はそれぞれ社領を寄進し例祭にはたえず奉幣して明治に及びました。

大正十四年秩父宮御成をはじめ十数家の皇族が参つておられ昭和四十六年七月一日には別表神社(旧官国幣社)に列せられました。二千年に近い歴史をもつ当神社は古来、国家鎮護・縁結び・厄除交通安全の神として、幅広い信仰をあつめております。

## 鎮座地

宮崎県西臼杵郡高千穂町大字三田井字神殿

一、〇三七番地

## 御創建

人皇第十一代垂仁天皇の御代御鎮座

(伊勢神宮と同時御創建と伝ふ)

## 御祭神

高千穂皇神

天津彦彦火瓊瓊杵尊

彦火火出見尊

彦波瀲武鸕鷀草葺不合尊

十社大明神

三毛入野命

御子 太郎命

二郎命

三郎命

畝見命

このはなのやみのみこと

木花開耶姫命

とよたまのみこと

豊玉姫命

たまよりひめのみこと

玉依姫命

うめひめのみこと

鶴目姫命

照野命

大戸命

霊社命

浅良部命

## 合祀神

事勝国勝長狹神(ことかつくにかつながさのみこと)

大年神(おとしのみこと)

稲飯命(いなひのみこと)

五瀬命(いつせのみこと)

神日本磐余彦命(かむやまといわれひこのみこと)

猿田彦命(さるたひのみこと)

天鈿女命(あめのうずめのみこと)

## 神階社格

続日本後記第十三卷所載 承和十年九月甲辰

従五位下

日本三代実録第一卷 天安二年十月二十二日巳酉

従四位上

明治初期迄 高千穂十八郷八十八社総社

明治四年七月 延岡県 県社

明治四年十一月 美々津県 県社

明治六年一月十六日 宮崎県 村社

昭和四十六年七月一日 神社本庁 別表神社列格

仁明清和の兩朝に日向国最高の神階が授けられた

## 祭儀

歳旦祭 一月一日 夏祭 七月二十九日

猪々掛祭 旧暦十二月三日 四皇子峯高天原祭

捧開祭 二月十一日 体育の日の前日

建国祭 二月十一日 神楽祭 十一月二十二日

古墳祭 四月一日 十一月二十三日

大祭 四月十六日 大祓 十二月三十一日

## 史跡

### ※二上神社と二上峰

二上峰は日本書記で天孫降臨の櫛日二上峰と称する霊峰で男岳、女岳の双峰に分かれ、中腹に諾冊二神を祀る二上神社があり此の山には建国の神話に因むもの多数を伝う。

### ※くしふる峯とくしふる神社

日本書記の「築紫日向の久志布流多氣」とある天孫降臨を伝う峯、この中腹に天孫瓊々杵尊を主神として祀るくしふる神社がある。

にぎのみこと

はいし

じゅうしゃだ

### ※神楽 (国指定重要無形民俗文化財)

天岩戸開のうづめの命の舞が起源といわれる。特に秋の夜神楽は集落毎に氏神様を農家に招き夜を徹して神楽を奉納し老若男女夜もすがら楽しむ姿はまことに情緒的である。

### ※棒術、白刃術

戸田流と真陰流との二流派あり、古来神社の警護に備へたが創始とされ、又一説には江戸より高千穂宮に貢物を奉納の際道中の警備に用いたのが始まりと伝へ、その術と作法とは今尚氏子中の嫡男に継承され祭典の御神幸に欠くことのできない神事の一つとなっている。

### ※宝物と天然記念物

鉄道狛犬(国指定重文)

本殿(国指定重文)

御神像(国指定重文)

秩父杉(樹令八百年を超え、高さでは宮崎県一の大杉である。) 他神楽面や古文書など多数。

### ※鬼八塚と八峯九谷

高千穂神社の御祭神(十社大明神)は巨賊鬼八を討つて民生安定の基を定められた。鬼八は性粗暴脅力人にすぐれ、悪逆非道の行いが多く高千穂峽に臨む八峯九谷の洞穴に住んでいたため、大明神これを追い各地転戦これを討ち、五体を切りはなして三ヶ所に埋めた。その一つが神州旅館裏に鬼八塚として残る。

### ※高天原

天孫降臨後八百万神々この丘に集われ、高天原を遙拝されし処と伝ふ。

### ※四皇子峰

うがやふきあへずの命の御子、稲永命、五ツ瀬命、三毛入野命、神日本磐余彦命(神武天皇)四皇子の御降誕の地と伝えられ、神功皇后三韓征伐の砌七日七夜の戦捷祈願をこめさせ給ふ地と伝ふ。

### ※国見丘

この地は神武天皇御出発の初軍勢を召集遊ばされしところと伝え又御孫建磐龍の命九州統治御西下の際この丘で祖宗の神霊を祀り朝夕国見されたと伝ふる。

### ※古墳と石器

高千穂を中心として、横穴古墳多数散在し、石器、土器、曲玉の遺物各所に発見され特に陣内遺跡では三千年乃至五・六千年以前の縄文時代の遺物が発見されている。吾平山陵外神代三陵もこの地にある。

### 文化財